

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0872001201		
法人名	有限会社 弥久		
事業所名	グループホーム幸寿苑		
所在地	茨城県 つくば市磯部15		
自己評価作成日	平成25年6月4日	評価結果市町村受理日	平成25年9月25日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

もし自分が認知症になったらどのように関わってほしいか職員一人一人に投げかけながら仕事に取り組むようにしている 人生最後の時に関わっていることを自覚しここに居ても幸せだと感じる時間を提供できるように努めている 共に生きることを目標にしている

**※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)**

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0872001201-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0872001201-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

目の前に広がる筑波山をバックにとてもどかな雰囲気のある場所であった。法人代表が地元の開業医で、地域との信頼も厚く、医師を募って入所する方も少なくない。医師が定期的に往診し、看護師も常駐している為、医療依存度の高い方でも安心して入居できる。実際に看取りの実績も多く、調査時も1名の方がターミナルケアを行っていた。ホームは小規模デイサービスと居宅介護支援事業所が併設されており、デイ利用者との交流も盛ん。開設当初からの職員も多く、管理者を中心にコミュニケーションが十分に取れており、社会貢献された人生の先輩に対し敬意を表し、ケアに取り組んでいた。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成25年7月8日

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	できるだけ家庭的な環境を作るように心がけて安心して利用者の人たちが生活できるように職員ともども日々努めている	理念は玄関入って左手に掲示されており、会社の理念の他、ホーム独自の理念を掲げていた。項目も4項目でわかりやすく、地域密着の意味も含まれていた。業務を通じ、職員浸透に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域交流会には沢山の地域の方が来て下さるが日常的な交流は少ないと感じる	日常の散歩がてら畑仕事をしている方と会話を交わしている。ホーム主催の夏祭りに住民を招いたり、下妻の小学生が体験学習に訪れたり、筑波大の学生がボランティアに訪れる。	地元中学生の職業体験やホームヘルパーの養成講座の受け入れ体制は整っていないとの事。こういった取り組みを通じ、将来のホームを担う若者を育てて頂ける事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解や支援の仕方など地域の人たちに向けて勉強会など開催を目標とし実現できるようにしていきたい	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見は職員にもきちんと報告してサービス向上に努めている	推進会議は3ヶ月に1度開催。市職員や家族代表が主に参加。地域住民の参加は敷居が高く、中々実現には至っていない。自治会には、近隣に在住する代表が加入している。会議では、活動報告が中心。	活動報告以外にも、住民も含め参加者が関心を持っているテーマを決め、“参加して良かった”と思えるような更に充実した会議となることを期待します。住民との繋がりを推進会議から深めていってはいかがでしょうか？
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護等の利用者の方を通して福祉課の担当の方とは密に連絡をとることが多いまた推進会議等で意見交換はしている	推進会議の機会以外にも、制度上の相談や困難事例についての相談も含め、相談を密に行なっている。生活保護担当者や包括支援センターとも連携を取り、協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしてはいけない事を理解しておりホームの中では一切行っていない	身体拘束については、現在行っていない。過去には止むを得ず一時的に行った事もあるが、その際に家族に説明し、同意書を交わしている。マニュアルを用意し、拘束排除についてのポスターを掲示し、勉強会なども開き常に意識している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症の研修などをとおして虐待については学んでいるまた職員間で注意し合える環境を整えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	理解できている職員は限られてしまっている全職員が理解することは時間をかけないと難しい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前調査や契約の時にご家族の意見や要望はきちんと聞いている 説明もしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者機関を設けている ご家族の意見要望を話しやすい環境は整えている	意見箱を玄関前に設置し、意見の徴集に努めている。毎月入居者の様子を手紙で報告し、状況がわかるように務めている。面会時にも直接意見を聞くように努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員がしたいことはやってもらえるように体制はできている	管理者は、業務を通じ意見の徴収に努めている。また、職員会議、親睦会を開き、職員とのコミュニケーションを図っている。職員の表情も明るく、管理者と職員との障壁は殆ど感じられなかった。	職員研修に関して、情報が十分に伝わっていない所があり、職員の研修に対する意欲が感じられたことから、認知症・記録・フットケア・音楽療法・ターミナルケア・レクリエーション・・・様々な研修に参加する機会を設け、職員の個々のスキルアップ、しいてはホーム全体の更なる質の向上に努めて頂くことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格支援や有給の消化を積極的に努めストレスをためないように勤務体制を図っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などは積極的に参加するように促している個々の力量に合わせて仕事を与えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会など以前に比べると参加の機会が増えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困りごとと要望はきちんと聞いている 本人が安心できる関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には要望 困りごとを十分聞き入れ何でも話せる環境づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先順位を重視してその時必要な支援ができるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の都合を押し付けないように十分に注意をしている利用者の出来ること把握して共に生活することを心かけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	食事介助をして頂いたり外出の付き添いをして頂いたり家族の協力を得られる利用者もいるが面会が少なかったり 家族の都合など難しい場合もある		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者家族の状況次第で馴染みの人場所が途切れないようにできるだけ支援はしている	馴染みの美容室に家族が連れてったり、買い物や近所の神社などに出かけている。住み慣れた地域からこちらに越してきた方も多く、遠方までは出掛けられないが、手紙や作品を送ることで関係が途切れないよう取り組んでいく予定。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を理解して職員が押しつたり引いたりしながら支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の連絡をし様子を伺うことはしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何を望んでいるのか会話などからくみ取るようにしている 利用者のペースに合わせてるように努めている	“花を植えたい”など、普段のささやかな会話の中からできるだけ実現できるよう配慮している。コミュニケーションが困難な方にも、本人が嬉しいと思う事を実施している。“うどん、そばを食べたい”という方に対し、後日メニューを変更し叶えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に家族から生活歴は聞くようにしできるだけ家庭の延長の生活ができるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夜間帯から日勤帯で利用者の様子を引き継ぎ心身状態の観察をしその日の状況に合わせて支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題点など職員間で出し合い支援に反映しているが介護計画までに反映されていないこともある	その方個人個人の、本人らしい計画書が作成され、職員が内容確認後、サインをするようにしている。ケース記録も時系列で項目ごとにまとめられ、前回よりも改善されている点を確認できた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は欠かさずしている支援の見直しもしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者にとってその都度必要な支援に柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察 消防と限られた地域資源になっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の要望に添って医療機関は利用している	元々のかかりつけ医もあり、受診支援を行なっている。家族が受診付き添いを行なうことも有り、連絡ノートやケース記録に残し、申し送りを行なっている。2週間に1度代表の医師が往診を行い、24時間体制も整っている。救急時は協力医院と連携を取り対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは連携をとりながら支援にしている 看護師も積極的に支援に参加している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院とは連携をとりながら退院に向けて支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の時に看取りについては説明している 看取り介護の指針も作成してある	看取りは希望があれば、対応している。入居時に同意書を交わし、実際にその時にも確認の書類を交わしている。看取りについての指導もその都度実施し、十分に体制は整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル等をとおして指導をしているが定期的な訓練は行っていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練 水消火器を使って消火訓練は行っている	災害訓練は年2回。内、1回は消防署の立ち会いと夜間想定を行なっている。近隣住民の参加協力には至っていないが、震災時には毛布や食料を提供してくれた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重と声かけには十分配慮している	個人ファイルは、鍵付きの書庫に保管され、ボランティアが来る時には、部屋のネームプレートを外している。入浴時、異性拒否の入居者には同性で介助するよう配慮している。声掛けもその方を尊重した言葉を意識している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ささやかな事しかできないが選択の機会を設けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合になってしまうこともあるその人ペースに合わせて支援に努めていきたい		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装など家族から本人が気に入ったものを用意していただき美容室など以前から行っていた所に行けるように協力いただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事は必ず利用者と一緒にしている	厨房で調理されたものが出され、盛り付けや後片付けは出来る人にしてもらっている。日曜は厨房が休みの為、皆で考えた料理を作り出来る人には皮むきなどを手伝ってもらっている。本人が使い慣れた茶碗や箸を使用し、職員も同じテーブルで同じ物を召し上がっていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表を利用しながら個々の摂取量を把握してバランスを考えた献立表を作成している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食後は抜けてしまうこともあるが就寝前は必ず行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導を徹底しオムツ使用の軽減に努めている	車椅子の方もトイレ誘導を行い、排泄パターンを把握し、出来るだけオムツの使用を減らすよう努力している。退院後入居された方で実際にオムツが外れた方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分 食事に気配りをして便秘予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特浴の日と交互であるが必要に応じて対応している	入浴は週3回。寝たきりの方もデイサービスの機械浴で週3回入浴している。その時期にはゆず湯や菖蒲湯に入り、入浴剤も使用している。感染予防の為、マットの上に1人1枚バスタオルを敷いている。入浴拒否の方にもタイミングをずらしたり言葉を変えて入浴してもらえよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活にメリハリをつけて夜間帯の安眠に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導のもと薬のファイルを作成して確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花や野菜作りにも取り組んでいる水やりなど利用者の日課となっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物など一緒に出掛けるようにしている2か月一度戸外に出掛けることを目標としている	天気の良い日には周辺の散歩、週1回の買い物等日常的な外出支援は行っている。外出困難な方でも外気浴を実施している。ホームとしての外出イベントは大体2ヶ月に1度実施。また、家族来訪時、家族がお弁当を持参し外出する事もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失も問題などから利用者のお金の管理はしていない 立て替えて家族に請求している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くことが難しくなっている電話の対応は本人の希望に添って行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ 浴室など表示をして季節の花など飾るようにしている	リビングはととも広く、1ユニット(9名)に2ユニット分入れそうくらいであった。窓も広く光が沢山差し込み、暖かい雰囲気を感じさせた。フロアーには丁度七夕の笹の飾りが置かれ、季節感を感じさせた。廊下も車椅子が十分にすれ違える位広く、壁には外出イベントなどの写真が飾られていた。フロアーの隣には1段高い畳の間があり、自由に休憩できるようになっていた。トイレもとても広く、1ユニットに2箇所あった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	様子観察をしながら利用者のペースに合わせて支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を持ってきていただくようにしているその人らしい部屋作りに努めている	居室は、畳の部屋とフローリングにわかれており、布団希望の方でも自由に設定出来る。使い慣れた持ち込みのソファやテーブルが置かれ、家族の写真も飾られていた。ベッドとクローゼットは備え付けのものだが、それ以外で居室に入る物であれば、自由に持込可能となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事とできない事の把握して自立した生活を目ざしている		

(別紙4(2))

## 目標達成計画

事業所名:グループホーム幸寿苑

作成日:平成25年9月25日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地元の中学生の職場体験やホームヘルパーの養成講座の受け入れ体勢は整っていない事こういった取り組みを通じ将来のホームを担う若者育めるように	地元の中学生には年1回訪問して頂き介護の体験をしてもらう	地元の中学校に足を運び 職場体験の受け入れしていることを伝える具体的は事を相談し実現していけるようにする	6ヶ月
2	4	推進会議に地域の方の参加が少ない事や活動報告の他にも参加者が関心を持っているテーマを決め参加して良かったを思えるような充実した会議ができるように	推進会議には地域の人ができる限り参加して頂けるようにする 充実した会議が開催できるようにする	参加できそうな地域の人に再度お願いする 会議する際会議のテーマを決めて地域の人にお知らせする	6ヶ月
3	11	職員研修が少ない 職員には研修を受ける意欲があるので研修を機械作れるように	職員のステップアップができるよう研修の機会を増やしていく	研修の情報を集めその人に合った研修に参加できるようにする	6ヶ月
4					6ヶ月
5					6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。